

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.33</b>					<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>4.2</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能	T-3使用	<b>5.0</b>	0.60	-	-			
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.7</b>	0.35	-	-			<b>2.7</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.2</b>	0.50	-	-			
1 室温		<b>3.0</b>	0.38	-	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		<b>1.0</b>	0.25	-	-			
4 ゾーン別制御性	マルチユニット型ヒートポンプ方式で40㎡程度のゾーニングを実施	<b>5.0</b>	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.8</b>	0.25	-	-			<b>2.8</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>2.4</b>	0.30	-	-			
1 昼光率		<b>2.0</b>	0.60	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気環境</b>		<b>4.1</b>	0.25	-	-			<b>4.1</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	内装材はF を全面的に採用	<b>4.0</b>	1.00	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
<b>4.2 換気</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-			
1 換気量		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
3 取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は各種排気口と6m以上離れて設置されている	<b>5.0</b>	0.33	-	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
<b>4.3 運用管理</b>		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御	全館禁煙	<b>5.0</b>	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.2</b>	0.40	-	-			<b>3.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.3</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペースが9㎡以上である	<b>4.0</b>	0.33	-	-			
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.3</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	事務室の天井高は、2.7mである	<b>4.0</b>	0.33	-	-			
2 リフレッシュスペース		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
3 内装計画		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.31	-	-			<b>2.8</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-			
1 耐震性		<b>3.0</b>	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>2.6</b>	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管(硬質塩化ビニル管・ステンレス鋼管)・給湯管(硬質塩化ビニル管) C、排水管(硬質塩化ビニル管) B	<b>4.0</b>	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			

2.4 信頼性			2.8	0.19	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			1.0	0.20	-	-	
3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	通信手段の多様化・精密機械の地下空間への設置を避けている		4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.82m(事務所部分)		4.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.16		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース			3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制	BPlm=0.58		4.0	0.08	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.26	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	BEIm=0.92		3.8	0.40	-	-	3.8
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR換算値=13%	3.8		-	-	
集合住宅の評価					-	-	
4 効率的運用			3.0	0.26	-	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.21	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGs下地材・OAフロアを使用		5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2=96%		3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	